

2008年8月7日

各 位

株式会社日立メディコ  
執行役社長 浜松 潔

## **超電導 MRI 装置「ECHELON Vega」新シリーズを発売**

株式会社日立メディコ(本社所在地:東京都千代田区、執行役社長:浜松 潔、資本金 138 億 8 千 4 百万円)は、超電導 MRI 装置「ECHELON Vega」のアップグレードを行い、「省スペース・省ランニングコスト」「操作性の向上」「画質の向上」を実現した新シリーズを発売します。

### **1. システムの概要**

「ECHELON Vega」は、高性能・高画質・将来の拡張性を兼ね備えた超電導 MRI 装置として 2006 年に販売を開始し、日本・アメリカだけでなく、ドイツ・イタリア・ロシア・韓国とグローバルな販売を展開し、お客さまから高い評価を得ております。

このたび、実際にご使用いただいているお客さまの意見を「ECHELON Vega」に反映させることで、「省スペース・省ランニングコスト」「操作性の向上」「画質の向上」などお客さまが求めるニーズを捉えつつ、さらにオプションにより新たな計測機能を搭載可能としました。これにより、「ECHELON Vega」の製品競争力が向上しました。

### **2. 主な特長**

#### **(1)省スペース・省ランニングコストを実現(注)**

シールドルームや機械室における MRI 装置の設置スペース、設置時の工事費用は購入を検討する際の重要な要素と考えられています。「ECHELON Vega」新シリーズでは機械室に設置されるユニット数をほぼ半分に減らすことで、従来の同装置より機械室のスペースを 40%程度縮減することが可能となりました。

また、必要とされる電源容量も小電源化することでランニングコストを従来の同装置より 40%程度低減することが可能となりました。

(注)設置条件により仕様は異なります。

#### **(2)操作性の向上**

アイコン機能の充実、操作時の必要クリック数を低減させたほか、操作ディスプレイを従来の 19 型から 24 型に拡大することで画面により多くの情報を表示することが可能となり、操作性が向上しました。

#### **(3)画質の向上**

MRI 装置では、より精細な画像を得るために受信コイルの多チャンネル化が進んでいます。「ECHELON Vega」新シリーズでは、16 エレメントの受信コイルをラインナップに加えることで、1 回の撮影で広範囲かつより精細な画像を得ることができます。

#### (4)充実したオプションソフト

近年、MRI 装置では磁場強度だけでなくソフトウェアの機能向上が重要なファクターと位置づけられています。「ECHELON Vega」新シリーズのシステムソフトウェアでは基本的な使い勝手の向上に加え、オプションにより新たな計測機能を搭載可能としています。

TIGRE(T1 weighted GRadient Echo nature for the sequence)

脂肪抑制効果を保ちつつ、造影ダイナミック検査に対応した計測機能であり、近年注目を浴びている MRI 装置の乳房・肝臓検査などへの応用が期待されています。

Whole Body Imaging

Whole Body Imaging は、各部位をそれぞれ撮影したことで得た画像を繋ぎ合わせ視認性をあげる機能であり(イメージステッチング機能)、近年注目されている全身計測機能に対応しています。

3. 製品名：「ECHELON Vega」(エシェロンヴェガ)
4. 価格(標準構成)：9 億 5000 万円(システム構成により価格は異なります)
5. 発売時期：2008 年 8 月上旬
6. 販売予定台数：60 システム(2008 年度)



装置外観

#### 【このニュースのお問合せ先】

株式会社日立メディコ 広報担当：杉原、貝間 TEL:03-3526-8809  
製品担当：小木 TEL:03-3526-8307